

平成 6年 4月 15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会
青梅市郷土資料室
(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

青梅は文化財の“宝庫”

福島家住宅が平成6年3月22日で都の有形文化財に指定された。沢井2丁目にあり、沢井村下分の旧主家。江戸時代中期から三田領一帯の筏師組合総代を務めた名家である。建物は18世紀中頃のものと思われる市内でも最古に属する民家。

この指定で、市内にある都指定文化財は44件。このほか国指定が16件、市指定が132件を有し、全体では192件にものぼる。まさに文化財の宝庫である。

これを西多摩地域の各市町村と対比してみるとその感を一層強くする。

市町村名	国指定	都指定	市町村指定	合計
青梅市	16	44	132	192
奥多摩町	2	6	37	45
秋川市	3	11	38	52
五日市町	1	14	48	63
羽村市	1	4	11	16
日の出町	1	6	18	25
檜原村	1	12	11	24
福生市	?	1	21	22
瑞穂町	0	1	18	19
合計	25	99	334	458

(青梅市のみ平成6年3月31日現在、他は平成4年3月31日現在の数)

明治29年発行の東京府全体をみると、その頃現三多摩地域には7つの町があった。青梅、五日市、八王子、日野、府中、調布、田無がそれである。渋谷や世田谷はまだ村であった頃である。

ことほど左様に、多摩川の溪口部に立地しているわが青梅市は江戸時代より人口が集積し、産業、文化活動の盛んだった拠点であったのであり、そのことを想うと当然のことではある。

そして上表をさらに詳細にみるならば、西多摩地域全体の国指定の6割、都指定の約4割の物件が、青梅市域に所在していることに気づかされる。加えて、明治、大正、昭和前期の日本の近代化の所産ともいえるべき晩夏財、ートンネル、織物工場、校舎や駅舎なども保存すべき状況に置かれていることを忘れてはならない。

(文責 川鍋)

今月号よりA4サイズになりました。

* 青梅市教育委員会発行新書籍の案内 *

『青梅市仏像彫刻調査概要I』(平成6年2月1日発行) 頒価 500円

沢井地区、梅郷地区、成木地区にある寺院所有の調査報告

青梅市郷土博物館にて頒布してあります。